



磨き上げモニター調査

第二回報告書

平成 28 年 8 月

株式会社クリケット「季刊高知」編集部

目次

調査の概要	3
1. 現状・課題	3
2. 調査の目的	3
3. 実施要項	3
4. 調査結果の見方	3
5. モニター参加者	4
6. 調査票	5
調査結果	7
1. レストラン・ショップ	8
2. 映像ホール	10
3. ハーバリウム（標本室）	11
4. 牧野文庫・図書室	13
5. 五台山口ビー	14
6. アトリエ実習室・体験実習室・茶室	15
7. カフェ「アルブル」	16
8. 企画展示室	18
9. 常設展示室	19
10. その他、園全体に関する事柄等	22
総評（分野ごとの視点）	26

調査の概要

1. 現状・課題

高知県立牧野植物園は、「植物分類学の父」と称される牧野富太郎博士の功績をたたえた博物館や研究機関としての機能と観光施設としての機能をあわせもつ総合型植物園である。

一方で、入園者数は開園50周年にあたる平成20年度の年間20万人をピークに減少傾向にあり、新たな魅力を創出する必要がある。

2. 調査の目的

全国の植物園を先導する総合植物園として、また、県外からも誘客できる観光の拠点施設として、県立牧野植物園の新たな魅力を創出するため、今年度から磨き上げ整備基本計画の策定を進めている。

このモニター調査は、県内の様々な分野から数名に牧野植物園を視察した上で、グループディスカッションを通して園への評価（強み・弱み）や意見を集約し、牧野植物園の日頃の運営や磨き上げ整備の基礎資料とすることを目的としている。

3. 実施要項

日時：平成28年7月3日（日） 9:00～13:00

場所：高知県立牧野植物園 本館窓口前集合

主催者あいさつ～園内視察～グループ協議～昼食

4. 調査結果の見方

報告書内に使用している図の構成比は、小数点以下第二位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

5. モニター参加者

	分野	所属	来園頻度
1	教育	私立小学校 校長	年4回（シーズン毎など）以上
2	教育	市立小学校 特別支援学級担当教諭	2～3年に1回程度
3	教育	市立小学校 学校事務担当	年2回程度
4	高齢者	高齢者団体 会長	年4回（シーズン毎など）以上
5	高齢者	社会福祉協議会 介護事業所長	年2回程度
6	自然環境	自然環境団体	しばらく来たことがなかった□（最後に来たのは2010年頃）
7	自然環境	自然環境団体 事務局長	はじめて来た
8	外国人	語学ボランティア	年1回程度
9	外国人	語学ボランティア	年2回程度
10	観光（インバウンド）	語学ボランティア団体	年1回程度
11	観光（インバウンド）	語学ボランティア団体	年1回程度
12	観光（インバウンド）	語学ボランティア団体	しばらく来たことがなかった□（最後に来たのは2013年頃）
13	観光	観光ガイドボランティア団体 会長	年1回程度
14	観光	観光ガイドボランティア団体 副会長	年4回（シーズン毎など）以上
15	観光	観光協会 事務局長	年2回程度
16	観光（交通）	交通事業団体 会長	年2回程度
17	観光（交通）	交通事業団体 副会長	しばらく来たことがなかった□（最後に来たのは1971年頃）
18	観光（交通）	交通事業団体 常任理事	年1回程度
19	子育て	子育てサークル	しばらく来たことがなかった□（最後に来たのは2014年頃）
20	子育て	子育てサークル	しばらく来たことがなかった□（最後に来たのは2012年頃）
21	子育て	子育てサークル	年1回程度
22	子育て	（同行者・夫）	2～3年に1回程度
23	子育て	（同行者・子）	2～3年に1回程度
24	子育て	子育てサークル	しばらく来たことがなかった□（最後に来たのは2014年頃）

6. 調査票



高知県立牧野植物園磨き上げモニター 調査票

平成28年7月3日 高知県立牧野植物園

◎ご記入に当たってのお願い

- ・ 園内をご覧になって、その評価やお気付きのこと等をご記入ください。
- ・ この調査票をもとにグループ討議を進めます。
- ・ この調査票は本日のモニター調査終了後に回収します。

1 はじめに(あなた自身のことについて)

- ・ ご所属名 _____
- ・ ご氏名 _____
- ・ ご来園の頻度等 → 本モニター調査に初参加の方のみご記入ください。

※最も当てはまる選択肢の番号に○印を付け、「5」、「7」に当てはまる場合は、その内容を()内にご記入ください。

1: 年4回(シーズン毎など)以上 2: 年2回程度 3: 年1回程度 4: 2~3年に1回程度

5: しばらく来ることがなかった → 最後に来たのはいつ頃ですか? (_____ 年頃)

6: はじめて来た 7: その他(_____)

2 評価

※最も当てはまる選択肢の番号に○印を付け、その理由やお気づきのこと等を()内に具体的にご記入ください。

1) レストラン「アルブル」・ミュージアムショップ「バイカオウレン」

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気づきのこと等(具体的にご記入ください。)

[_____]

2) 映像ホール

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気づきのこと等(具体的にご記入ください。)

[_____]

3) ハーバリウム(標本室)

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気づきのこと等(具体的にご記入ください。)

[_____]

4) 牧野文庫・図書室

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気付きのこと等(具体的にご記入ください。)

[]

5) 五台山ロビー

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気付きのこと等(具体的にご記入ください。)

[]

6) アトリエ実習室・体験実習室・茶室「結網山」

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気付きのこと等(具体的にご記入ください。)

[]

7) カフェ「アルブル」

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気付きのこと等(具体的にご記入ください。)

[]

8) 企画展示室

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気付きのこと等(具体的にご記入ください。)

[]

9) 常設展示室・階段広場

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤大変悪い

◆理由・お気付きのこと等(具体的にご記入ください。)

[]

11) その他お気付きのこと、ご意見をご記入ください。

[]

調査結果

表) 各視察エリアの評価点

	大変良い	良い	普通	悪い	大変悪い	無回答	平均点
レストラン・ショップ	2	12	8	0	0	1	3.73
映像ホール	3	12	5	0	0	3	3.90
ハーバリウム(標本室)	12	6	2	0	0	3	4.50
牧野文庫・図書室	16	5	1	0	0	1	4.68
五台山ロビー	1	15	2	2	0	3	3.75
アトリエ実習室・体験実習室・茶室	2	10	6	2	0	3	3.60
カフェ「アルブル」	0	6	14	1	0	2	3.24
企画展示室	6	8	6	0	0	3	4.00
常設展示室・階段広場	11	3	3	0	0	6	4.47

- ※ 表内の 部分は、視察エリアごとの第一位。
- ※ 平均点は、大変良い=5点、良い=4点、普通=3点、悪い=2点、大変悪い=1点とし、有効回答数を母数とした平均値。

アンケート用紙で得られた視察エリアごとの評価をみると、平均点が最も高かったエリアは牧野文庫・図書室で4.68点となっている。次いで、ハーバリウム(標本室)が4.50点、常設展示室・階段広場が4.47点と続いた。最も平均点が低かったエリアはカフェ「アルブル」で3.24点という結果になっている。

1. レストラン・ショップ

【意見】

<共通>

- 空間としては非常に良いと思う。(子育て)
- レストランとショップの両方が入居しているので、どうしても狭くなる。しかし、どちらも利便性や快適性を考えると今よりも広くすべきだと思う。(観光 / 子育て)
- 本館はショップだけにして、レストランはカフェがある場所に移すほうがいい気がする。(交通)

<ミュージアムショップ>

- オリジナルのお菓子が無いように感じた。(教育)
- 一般的なお土産と、牧野博士や植物に興味がありそうな人が見たら楽しそうな本やグッズ、オリジナル商品が色々揃っていて面白かった。(自然環境)
- ぱっと見た印象では、ありきたりのお土産物ショップに見えるかもしれない。もう少し工夫が必要。(自然環境)
- 見て終わるといった感じのレイアウト。とにかく手に取ってもらう工夫が必要。同じ商品でも陳列を可愛くするだけで変わってくる。真ん中の商品を並べているところを取り払えばもう少しとどまってくれると思う。(子育て)
- 何が「売り」なのかよく分からない。よく見るとオリジナル商品もあるが、ポップなどを活用したオススメの商品や人気商品などの発信が非常に弱いと感じた。(子育て)
- 結構好きな場所。色んなオリジナル商品があり、開発されて増えているように感じている。買って家で使いたいと思うものはある。(インバウンド)
- レジでクレジットカードが使えることは旅行者にはすごく便利と思う。(インバウンド)
- ダイエットのお茶などがあると欲しくなる。身体に良いお茶、ハーブなど。植物園オリジナルで。(インバウンド)
- 特にアジア系の方は漢方薬に興味があるので、漢方薬でオリジナルなものを打ち出せるといい。店内には植物モチーフの商品が豊富だが、もう少し薬草的なもの、例えば薬草風呂でも良い。牧野植物園でしか買えないものができたら、もっと売上に繋がるのではないかという気はする。(外国人)
- 食べ物があり、手作りの物があり、子どもを連れて来たら楽しめると思う。(外国人)
- 混雑している時は、バッグなどの手荷物が商品に当たったり、お客さん同士でもぶつかりたりして、ゆっくり見られる感覚がない。(子育て / 観光)

- 商品があちこちに点在しているので、効率良く買い物ができない。(観光)
- 入店してすぐ目に入る商品が、牧野植物園らしい一品ではなく、商売的な一押しの商品だったのが少しもったいない。(観光)
- ポストカードは良かった。お土産に買っていこうと思った。(観光)

<レストラン>

- 入口で英語表記のメニューがあればと思った。(教育)
- 料理がどのようなものかは分からないが、値段が高い雰囲気が出た。高齢者をターゲットにしているのであれば無難かなと思うが、子育て世代、中間層を取り込みたければそれなりの工夫をしなければいけないと思う。(子育て)
- 独身の時は来ていたが、子育て世代には入りにくい。お子様ランチもないし、座敷があるところを子ども連れの方は好む。(子育て)
- よく入口の黒板に書いてアピールすることがあるが、ここはメニューを置いているだけ。何が売りが、オススメは何かということは非常に分かりにくかった。(子育て)
- 海外の方を案内した時、レストランはあまり使わなかった。あったとしても、ちょっとしたデザートを食べる程度。(インバウンド)
- ブライダルに使えることは動画等で紹介するほうがいい。資料だけでは物足りない。(インバウンド)

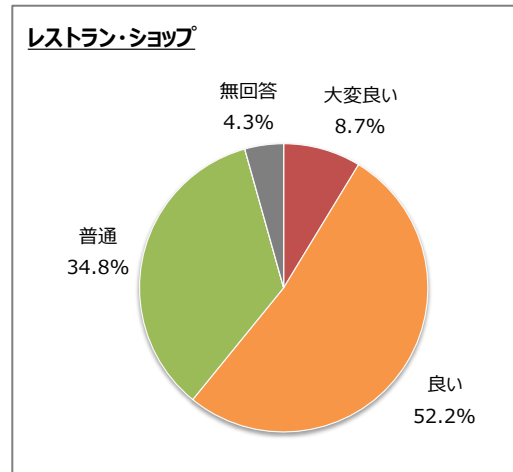
【提案】

- 混雑を解消するために、オリジナル便箋・しおりのコーナー、図鑑コーナーなど、各コーナーを一目でわかるようにして目的地に誘導する。(教育)
- 牧野植物園をどういう場所として位置づけするかというコンセプトがあって、採算や事業性も大事だが、そのうえで「クッキーはないんです」というシヨップ運営も出来るのではないかと思う。(自然環境)
- 植物画をプリントしたTシャツがあった。それも良いが、牧野博士の特徴的な文言が入ったTシャツもほしい。(自然環境)
- シヨップ店員から案内があれば売れると思う。(子育て)
- 前回のモニター調査で薬草園を見たが、薬草で商品ができないかと思う。確かにオリジナル商品は多いが、食べ物はどこでも買えるような気がする。薬草を使った食べ物ができないだろうか。(インバウンド)
- 土産品には、牧野植物園の名前が書かれているような分かり易さも必要。(交通)
- 近くでお弁当などを食べられるとの事だったので、レストランでもサンドイッチ等の軽食を買えたら良いかもしれない。(インバウンド)

【考察】

アンケートでは「良い」と評価した参加者が52.2%で最も多く、次いで「普通」が34.8%となっている。

レストラン・ショップとも工夫できそうな指摘があった。レストランは入口でメニューの展示だけでなく、黒板等を使った手書きのお薦めメニューのPR、英語表記などの意見。ショップは牧野博士、牧野植物園のオリジナル商品进行评估する声と、一般のお菓子などが必要という声があった。



2. 映像ホール

【意見】

- 子どもたちが遠足に来て、ここで植物の講座を聞くなど、発展的な学習をすることもできそう。そういう活用ができることを知らない先生が多い。もったないし、積極的に広報したらどうか。(教育)
- 「ここは利用できる場所」ということをもっとPRしないといけない。(自然環境)
- 大人向けだけではなく、子育て世代を取り込むなら、大きい机の間に小さい机を置いたり、小さい子ども用の本を少し置いたりしてほしい。(子育て)
- 貸館にしたらどうか。活用されないのはもったいない。(インバウンド/交通)
- ここで植物園の全容が分かるような動画を活用できたらいいと思う。まさしく映像ホールとして使えたら子どもの学習に良い。(インバウンド)
- 仲間が集まって何かする時に使えたら、プロジェクターもあるし、すごく便利だと思う。(インバウンド)
- とても良いスペース。くつろげる。(教育/インバウンド)

【提案】

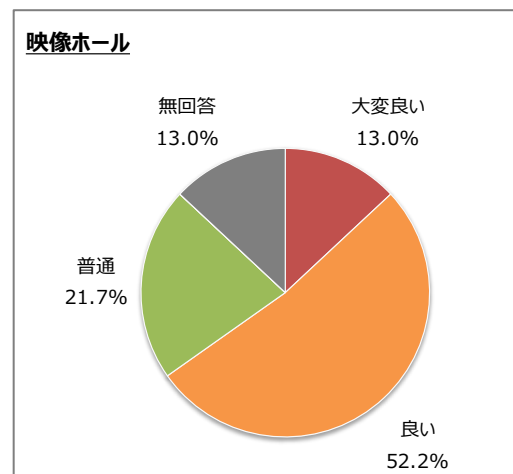
- 植物園なのだからテーブルの真ん中にお花を飾るといい。ちょっとしたことだが、それがいい。(子育て)
- 普段、開放して映像を流しておくとも良い。でも難しいものではなく、イメージとしてはアンパンマンの植物に関係したものなどが流れていると、子ども連れが休憩をしやすい。上映時間が決まってもいい。(子育て)

- ・ 園内をくまなく紹介しようとする、あまりにも情報量が多いので、園内のポイントを紹介する 2 分程度のコンパクトな動画を常に流すのはどうだろう。読むことは意外に骨が折れる。ポイントを押さえて散策できるように、一度ここで情報を得てから出発という流れにする。(子育て)
- ・ 今は誰でも動画が撮れる時代なので、牧野植物園の自分が好きな所を撮ってもらってコンテストを開いたり。動画で募集するというのも良い試み。(インバウンド)
- ・ 昔、外国人の方が毎年映画祭をやっていた。別の場所で開催していたが、自分たちが撮った 3 分くらいの動画を流して、観客が投票して順番付ける。場所は色々と変わっているようだが、ここで開催するとすごくいいかなという感じがする。(インバウンド)
- ・ 植物を展示するのではなく、例えば修学旅行が来た時に、植物標本のことを語ってもらったり、ガイドがあつたりすると、ものすごくいい場所が変わると思う。空間の良さを活かさない、もったいない。(観光)

【考察】

アンケートでは「良い」と評価した参加者が 52.2%で最も多く、次いで「普通」が 21.7%となっている。

稼働率の低さの説明があつたためか、遠足や教育旅行、映像で牧野植物園を紹介、映像等コンテストの会場、子ども連れの家族の場所など、それぞれの立場で活用案があつた。すごく良いスペースでくつろげる。空間の良さをいかすなど、前向きな意見もあつた。



3. ハーバリウム (標本室)

【意見】

- ・ 壮大な場所だった。興味のある子どもたちが来たら、すごく喜ぶと思う。(教育)
- ・ 勤務しているスタッフの健康管理が心配。4~5名のスタッフが働く場所としては狭いし、コンクリートに囲まれて地下のような感じで、窓もない。空調設備は整っていて環境的にはいいかもしれないが、何か無機質で少し心配する。(自然環境)
- ・ 100年前に牧野博士が作ったものや、直筆のものが、ガラス張りではないところにある。これがガラスの向こうであれば話は別だが、おおっという感覚を味わうと、あとはそんなに工夫をしなくても、その感覚を持ったまま回ってもらえるので素敵だ。(子育て)

- せっかく何十万点の標本があるのに、限られた人しか活用できないのはもったいない。標本をデジタル化してパソコンから検索できるようなサイトを立ち上げて、もっと広く植物が好きな人が活用できたら、多くの人に興味を持ってもらえるのではないか。国内のみならず世界中の人が気軽に調べられる。(外国人)
- 標本を作るという地道な作業や研究がいろんな他の研究の基になっていると再認識。100年前の上野で採った桜の標本など、1つ1つがすごく美しい作品。夏休みに自分たちで作ったものとは全然違う。見るだけでも十分楽しめるのではないか。(インバウンド)
- 小学生などはすごく刺激を受けるのではないか。夏休み企画的な感じで、親子20名で見学できれば、夏休みの宿題の題材になりそうな感じ。(インバウンド)
- 標本を作製して保管していることは、パネル等で紹介することもできる。県のお金を使って、こういった研究活動をしていることを知らせるのは大事。(観光 / 交通)

【提案】

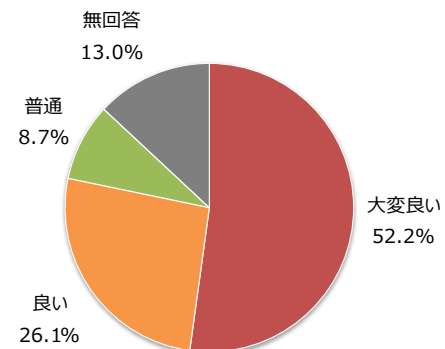
- 博物館、植物園、そして牧野博士の記念館という人となりを伝える場所であり、研究施設でもある。全面的な公開は難しいと思うが、そういう機能を持っていることは、一端だけでもPRするほうがいいと思う。(自然環境)
- 牧野植物園に、植物が好きな子どもたちを育てたいという思いがあれば、目玉の一つになる場所。ただし、それは手間暇がかかることなので、その思いがないと「入らないで」「触らないで」になってしまう。それを伝えたいのか、面倒だと思うのかは牧野植物園次第だと思う。(子育て)
- 子どもたちに標本というものを知ってもらうため、自分が標本になる体験はどうか。おそらく、子どもであればテープの上をペリペリと歩くだけでテンションが上がって、自分たちが草花になって大きな紙の上に標本になることを楽しめると思う。撮影スペースがあるだけでも面白いと思う。(子育て)
- 地道な研究活動をしていることが、もう少し色々な人の目に触れるようになると良いと思った。そうすると、外を眺める場所とは違う魅力が生まれて、来園のきっかけになるかもしれない。(インバウンド)
- 外国の方に紹介するならば、全部ではなく牧野先生の直筆の桜のような、自分たちが見ても「うわ、すごい！」となる数点だけの紹介でも良いのかもしれない。もし常時展示できるのであれば、また違う刺激を得られるのではないかという気はする。(外国人)
- 年に何回か人数限定ツアーをすれば、すごく魅力的で応募してくる人が結構いると思う。興味をもっている方や、専門家の人はぜひ行きたいと思うのではないか。(インバウンド)
- 一般開放することは難しいだろう。標本を少しずつでもローテーションで展示して、見てもらえるところがあるといい。あるいは、部屋の一部をガラス張りにして外から中の作業が見えるようにするか。そういう風なことをすれば喜ぶ人はいると思う。(交通)

【考察】

アンケートでは「大変良い」と評価した参加者が 52.2%で最も多く、次いで「良い」が 26.1%となっている。

一般公開されていない場所で、標本等の詳しい説明を聞く機会だったので、高評価になったと思われる。植物を展示するだけでなく、研究機能を持ち、教育普及活動を行っている植物園の一端を PR することで魅力となる、人数限定のツアーの実施などの意見があった。

ハーバリウム（標本室）



4. 牧野文庫・図書室

【意見】

- 高等教育向けだと思った。この貴重な資料は、研究と来場者を増やすこと、両方に活用できると思う。活用しないことは宝の持ち腐れでもったいない。(教育)
- 管理や保管等に費用はかかるかもしれないが、本物は見せる価値がある。(自然環境)
- 牧野文庫、図書室とも場所が知られていない。案内表示がないので、階段を降りて来る人はほとんどいない。(観光)
- この植物園の心臓部に触れたような気持ちがあった。今までは植物を通して牧野富太郎という人物に触れてきたが、牧野文庫を見たことですごく近寄れた気がする。人となりを伝える場所だし、わくわくした。(自然環境 / 観光)
- 予想をはるかに超える蔵書があった。しかも植物関係だけではなく、ただただ唖然とするほどの幅広い分野に及んでいた。牧野博士の興味というか頭の構造がすごい。牧野博士の脳の中を見るような感じで、すごくエキサイティングだった。(インバウンド)
- 解体新書の原本を見て感激した。口ゼツタストーンを初めて見た時のよう。(インバウンド / 観光)
- 俳句や川柳が苦手だという説明で、面白い人だと思った。牧野博士の人物像を紹介することは、博士をよく知らない人の関心が得られると思う。植物園に来るきっかけにもなると思う。(外国人)

【提案】

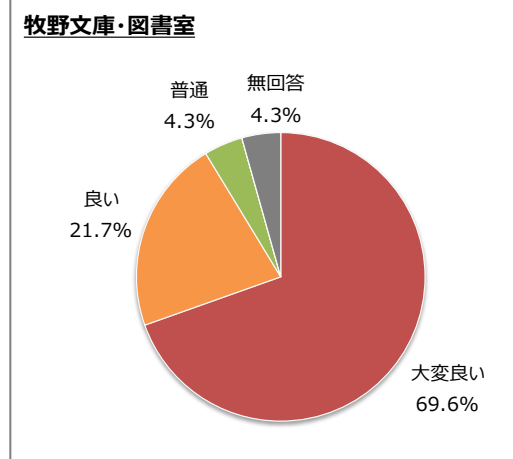
- 館内貸出のタブレットで牧野博士の植物図鑑などの画像が見られて、実物の植物を探しにいけると、中高生ぐらいにとって面白いのでは。(教育)

- 抽選で一般公開すればいい。募集するだけでも、ここにそういうモノ、場所があることを多くの人が知ることになる。(高齢者 / 自然環境)
- 図書室は自由に中へ入れないので、ガラスケースに展示して、何が書かれているか和訳を添えたり、月替わりで展示する本を入れ替えたりするとい。今月は解体新書をケースに入れて「コレは本物です」と書いておく。(子育て / インバウンド)
- NHKで放送しているドラマの主人公が作った「暮らしの手帖」第1号が並んでいた。それを見られてすごく面白かった。こういった話題性のある展示を、ドラマが放送されている今の時期にやるといい。牧野博士が花森安治と面識があったことを知らなかったので、ドラマのファンがそれだけでも見に来ると思った。(子育て)
- 一般公開していない場所の様子を撮影した動画を映像ホールで流せば、映像ホールの活用にもつながる。「すごい。こんなところもあるんだ」と見て満足できると思う。その際に「今週はこの解体新書が見られます」とPRすれば、つながりが生まれる。(インバウンド / 外国人)

【考察】

アンケートでは「大変良い」と評価した参加者が69.6%で最も多く、次いで「良い」が21.7%となっている。全体で見ても、最も評価の高い場所だった。

貴重な資料であることの認識と展示方法等の難しさは理解したうえで、この場所の活用について参加者の意見が多く出された。またここが、牧野博士の人柄を伝える場所という認識も共通していた。



5. 五台山口ビー

【意見】

- 照明が少し暗い。(高齢者)
- 自然を活かした口ビーだから、外も使える。(自然環境)
- 無料で貸し出しをしていることはいい。こんな場所がなかなかないので。(子育て)
- 五台山口ビーとアトリ工実習室、体験実習室、茶室が使われていなくて残念。全体のうちでこの周辺が中だるみしている感があって、もったいない気がした。(観光)
- 無料で利用できることは一つの魅力。ただし、展示を見るために入園料が必要。(観光)

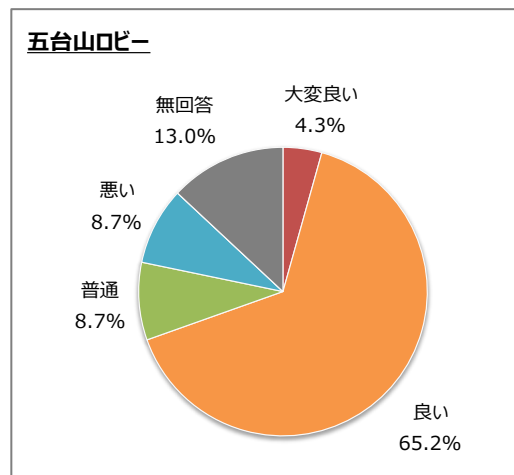
【提案】

- 来園した子ども向けの写生会などがあったと思うが、その作品をロビーに飾ることで、親子連れで再度来るようになるのでは。子どもの教室、押し花教室などもある。(教育)
- 植物の写真、絵画、植物をモチーフにした工作物などを一堂に集めて、「牧野県展」があれば面白い。(教育)
- おもしろい空間ができていますので、それを生かして楽しむことができるといい。例えば年に一度くらい、若手の元気なアーティストに「この空間を使って何かやらないか」と声をかける。そういうアートの展示があることで、空間の面白さが伝わる。(自然環境)
- 歩くだけで子どもも大人も退屈。せっかくジオラマがあるんだから、少しでも子どもが楽しめたり、遊べるようなスペースがあったら良い。(子育て)
- 和室の横にあった太鼓を子どもが叩く体験できたらいいと思う。小さい子どもでも休日とかに叩けるようにしたらいい。(子育て)

【考察】

アンケートでは「良い」と評価した参加者が65.2%で最も多く、次いで「普通」と「悪い」が8.7%となっている。

無料であること、子どもや来場者の発表の場所、アーティストとのコラボレーションや牧野県展など前向きな提案があり、改善の余地があることを感じさせてくれた。



6. アトリ工実習室・体験実習室・茶室

【意見】

- これだけ安い金額で借りられることを、茶室の前などに貼り出してもっと告知をしたらいいと思う。通りすがりの人でも、そういう場所を探している人はいると思う。(子育て)
- アトリ工と和室が一体になっているので、演出として今回展示されている人の作品があってもいいかと思った。(教育 / 子育て)
- 和室の中まで使えるなら、例えば生け花の発表はしやすそう。陶芸などもイメージが合うので、いろんな分野の人が見えそうな気がする。(子育て)
- 海外の方向けにお茶の体験ができたりするといい。正座は厳しいが、別に正座してもらわなくても、あぐらや畳用の椅子でも良いのではないかと。(インバウンド)

- 貸館を探している時に牧野植物園の HP は見ないだろう。貸しスペースを紹介する外部の HP 等へ掲載したらいい。(インバウンド / 外国人)
- 個人で高知に来られている外国人観光客向けに、茶道の体験ができるようなことを観光パンフレットで宣伝するといいかも。もちろん国内向けにも同様に。(外国人)
- アトリ工実習室は、食器や皿などに良いものがある。お茶の教室で使用する容器もなかなか良いものがある。そういう意味では備品が揃っている。(観光)

【提案】

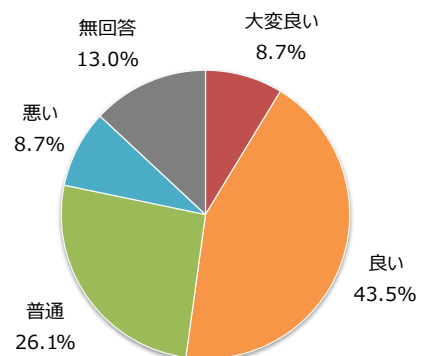
- かなり安い金額で借りられるということだが飲食はダメ。茶室もお茶を飲むくらいなら良いけど、お弁当とかはダメ。改善できないか。(子育て)
- 高知城の下で月に一度お茶席を開いているが、同じようにここの茶室で NPO の方とかに来てもらいお茶席を開くといい。園内が広いので疲れるから、そこでお茶を飲めたら良い感じ。(インバウンド)

【考察】

アンケートでは「良い」と評価した参加者が 43.5%で最も多く、次いで「普通」が 26.1%となっている。また 8.7%が「大変良い」、「悪い」と回答している。

使用料が安く、広報によって稼働率が上がるのが期待できる。併せて、牧野植物園に足を運んでくれる人たちを増やす役割にもなる。五台山口ビーと一体にした作品展示や、外国人向けの茶道体験などの意見があった。

アトリ工実習室・体験実習室・茶室



7. カフェ「アルブル」

【意見】

- 看板をもっと大きくして前に出して、PR すればいい。(教育)
- 広すぎる店をうまく使いこなせていない。スタッフも少ない印象。(高齢者 / 自然環境)
- 散策で疲れた頃に、少し休みたいと思う場所にあるが、カフェの気軽な感じが無い。男性が一人で入って良いのかな？という印象だった。(子育て)
- 薬用植物区に近いので、例えば薬膳料理などがあればと思う。また薬草を素材にしたオリジナル商品の販売なども希望。(外国人)
- レストランにしたらい。カフェだけではもったいない。(インバウンド)

- レストランは本館にあるので、気軽に入れる感じのカフェがいいと思う。ただ、サンドイッチやおむすび等の軽食があれば、少し座ろうかと思う。(インバウンド)
- 営業時間が限られているために、来たときに閉まっていることが多い。ちょうどお茶をしたくなる 15 時に閉店 (HP では 17 時) するのはいかがかと思う。(インバウンド)
- 園内を散策して、出入口まで戻ってきて食事をするかという、そうではないと思う。この場所で食事ができた方が嬉しい。以前利用した時は、ハーブティーとケーキを食べて休憩したが、本当は食事がしたかった。(観光)
- 利用した経験は飲み物を注文したくらいだが、やはり休みたくなるので、場所的にあの辺にあるのはいいと思う。(交通)

【提案】

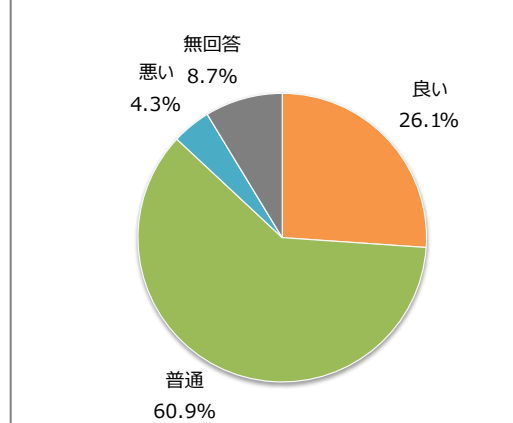
- バラが咲く季節には、バラのソフトクリームがあるなど、季節のスイーツがあればいい。園内で採れた薬草を使ったデザートも。「期間限定でこんなメニューがある」と FB や HP で掲載して PR。(教育)
- カフェの中にキッズスペースがあれば、お母さんたちはゆっくりコーヒーを飲んだりケーキを食べられる。キッズスペースは靴が脱げて、本が置いてあれば、子どもは一人で遊んでくれる。(教育)
- 雨天でも使える場所なので、誕生会などに貸してみてもどうか。(自然環境)
- サンドイッチ、おにぎりなどを低価格で売ると、少し歩けば芝生広場があるので子ども連れはご飯が食べやすいと思う。土日だけでも置いておけばいい。(子育て)
- 今は普通のカフェ。イスとテーブルしか無いから、植物を置いたり、いっそのことカフェの中をジャングルみたいにしたり。普通の植物を置くと虫が寄ってきて食べる時の邪魔になるのでドライフラワーでも。(子育て)
- あれほどのスペースがあるなら、団体の観光客がきても食事することは可能。竹林寺と牧野植物園と一緒に回る団体客が活用できると思う。(外国人)
- 外国人の方、特に欧米には偏食の人が多いため、サンドイッチやハンバーガーといったものしか食べない人もいる。ケーキだけでは足りないが軽食メニューがあれば、ランチで利用する可能性もある。(インバウンド)
- 本館のミュージアムショップをカフェの場所に移動させて、本館はレストランを拡張すればいい。そうすればかなり広いショップになるし、たくさんの品物を置けるようになる。そういった思い切った案がいい。(観光)
- 最近、注目を浴びている有用植物を用いたお弁当はどうか。新しい視点は特に女性から人気を集める。ハーブティー路線でも構わないが、売り出し方はターゲットをしっかりと明確にする。(観光)

【考察】

アンケートでは「普通」と評価した参加者が60.9%で最も多く、次いで「良い」が26.1%となっている。

前の広場で食べるためサンドイッチやおにぎりなどの販売、店内にキッズスペースの確保、植物を使った季節のスイーツなどの意見が出された。また気軽に入店できる店構えや、店内のインテリア等に植物を多用するなど、雰囲気づくりを大切にするという意見もあった。

カフェ「アルブル」



8. 企画展示室

【意見】

- 夏休みに昆虫展をやるらしいが、時期的に良い企画だと思う。(観光)
- 昨年の恐竜時代の植物展を見た時、出口に恐竜グッズをケースに入れて置いていたが、それは本館のショップでしか買えなかった。すごくもったいなくて、企画展から出た瞬間に、パッと財布を開いて買えたらいいと思った。(観光)
- 五台山口ビー、カフェ、企画展示室周辺のエリアは、通過する場所という意識が高いと感じた。南園と本館の間、もしくは企画展に行って帰る、その周辺として見ているだけで、さっと通り過ぎるような場所。(観光)

【提案】

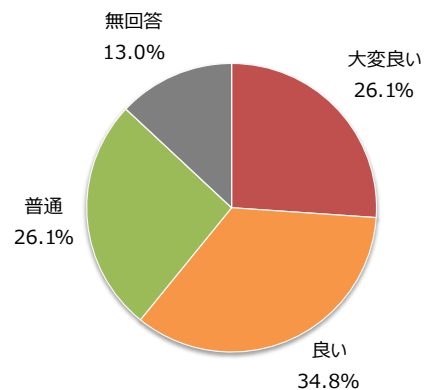
- 昨年の恐竜時代の植物展の際に、ガイドをしてくれた学芸員が描いた絵巻がすごく人気だった。その時だけで終わってしまわずに、残すことを考えたらいいと思う。そうして作ったものは一つの作品なので、販売するとか。欲しがるお客さんも結構いた。(観光)
- 企画展示室のすぐ横で買い物ができたり、一旦足を止めて休憩できるカフェになれば、収益が生まれる場所が一箇所できる。(観光)

【考察】

アンケートでは「良い」と評価した参加者が34.8%で最も多く、次いで「大変良い」と「普通」が26.1%となっている。

調査当日は企画展の搬入前で什器しかなかったせいか、参加者からの意見も少なかった。昨年度夏の企画展「恐竜時代の植物展」を見た参加者は内容を評価しており、その感想や改善点の意見が出された。

企画展示室



9. 常設展示室

【意見】

<常設展示室>

- 解説があることで、牧野博士の知らない一面を知ることができた。改めて解説の必要性を感じた。(教育)
- 小学生から贈られた牧野博士への手紙、話を聞いて涙が出そうになった。でも解説がなければそのまま通り過ぎる。(教育)
- とにかく常設展示室に入ってもらい、牧野博士を知ってもらい。植物分類学の父、高知県民でこれだけすごい人であることを知ってもらい。(子育て)
- 何年か前に見たものと一緒だなという印象。せっかく遊べるものが少しあって、子どもが興味を持ちそうなものがあるので、充実させたい。中途半端だと思う。(子育て)
- 常設なので何回か来た人は素通りする場所。常設展を抜けてスロープを降りた場所が肝になると思う。そこに変化があれば、このルートを通ると思う。常設展を変えるのは難しいだろうが、牧野博士という人物を知ってもらい演出は、角度を変えて行くしかない。(子育て)
- すごく見応えがあるところだと思う。情報量はすごく多く、じっくり見てもなかなか理解できない。今回改めて説明を聞きながら見ると、やはりすごく面白かった。定期的にガイドツアーがあれば、ぜひ参加したい。(インバウンド/外国人/交通)
- 普段は解説してくれるガイドがないので、寄らずに帰る人も少なからずいると思う。(観光)
- 英語の説明がきちんと記載されていて、他の施設と比べて充実している。だから、常設展示室は通訳がなくても大丈夫と語学ボランティア団体内では考えられている。(インバウンド)
- 中国語の表記が無い。(外国人)

- 照明(土佐和紙作家口ギール・アウンテンポーカルト氏製作)をこだわって作っていることはぜひ伝えたい内容。何度も来たことがあったが、これほどまでに思いを込めて作ったんだと感じた。やはり案内がないと分からないので、是非何かのかたちで紹介できるといい。(インバウンド/外国人)

<階段広場>

- 著名な建築家(内藤廣氏)がデザインしたこと、こだわった造りになっていることを、入口に看板を設置するなどをして説明をすれば、もっと魅力的な場所になる。(外国人)
- 屋根もあるし、天候に左右されない場所。屋外で環境はいい。(子育て)
- 日比谷公会堂のように舞台があれば利用度が高かっただろう。何もなければ用途が中途半端になる。(交通)
- 若い人に開放するとなれば夜の方がいいけれど照明がない。(交通)

【提案】

<常設展示室>

- 最後のところにキッズスペースが絵本と共にあったが、そこにも花を組み立てられる積み木でできたジグソーパズルのようなものがあると、お母さんたちが使いやすくなる。絵本しかなかったが、それもけっこう難しい感じ。多分植物に関連したものが置かれていると思う。(子育て)
- 以前に思い出のマーニー(*スタジオジブリ作品)の企画展を愛媛県美術館に見に行った時に、実際の声優さんがちゃんと話していた。高知出身の声優さんが音声ガイドを吹きこんでいたら面白いと思う。(子育て)
- 牧野博士の書斎のジオラマがあったが、生家も再現したら良いと思う。(子育て)
- 常に人が説明することは難しいかもしれないが、美術館等で貸出している音声ガイドを導入してはどうか。最近は大型客船で外国人が訪れているので、外国語にも対応するといい。そうすると、かなり見た時の印象が違ってくるような気がする。(交通)

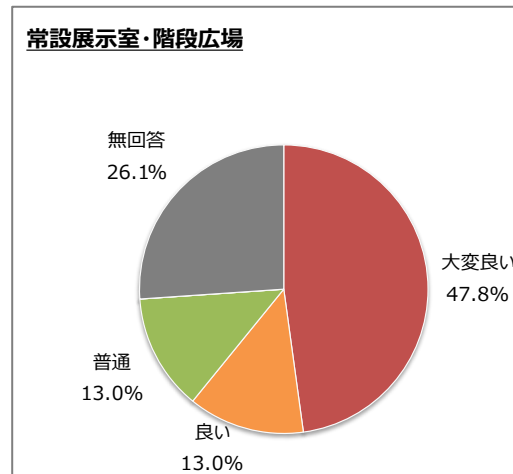
<階段広場>

- 料金設定をしているのに貸していないのは、なぜだろうとずっと思っている。(教育/子育て)
- ヨーロッパではあのような空間でコンサートが開かれて、飲み物を飲みながらのんびり過ごす。そういう感じでのんびりしたい都会の女性も多いので、コンサートなどをしてもいいのでは。植物園の緩やかで楽しい空間で、ゆっくりゆとりを持てるところがあると嬉しい。(観光)

【考察】

アンケートでは「大変良い」と評価した参加者が 47.8%で最も多く、次いで「良い」と「普通」が 13.0%となっている。ただ、「無回答」が 26.1%あった。

常設展示室は内容が素晴らしい。しかし説明を受けないと深く理解できない、素通りするという指摘があり、解説の必要性についての意見があった。また英語の説明は充実している、階段広場は貸出、活用方法の意見があった。



10. その他、園全体に関する事柄等

【施設（ハード面）に関する事柄】

- 今回のようにガイド説明を受けると印象が違って来る。スマートフォンでバーコードをかざしたら音声ガイドが聞けるものがある。そういうものを至る場所に設置して、誰でも説明を聞けるシステムづくりが必要。(教育 / 自然環境)
- 入場料の 720 円は高いと思う。金沢 21 世紀美術館では、有料ゾーンと無料ゾーンが敷地内で分かれていて、企画展によってもかえられる造りになっている。(自然環境)
- 外と同様に建物内でも迷子になりそうな感じ。誘導、目印、地図といったものを大きく掲示するとよい。トイレもおしゃれ過ぎてどうかという印象。(子育て)
- 屋外の散策で感じたことは、腰掛けるところとトイレの数が少ない気がした。さらに、トイレがある方向を案内する表示が足りない気がする。(外国人)
- 外国人観光客は現金をほとんど持ち歩かないので、全店舗でクレジットカードが使用できる方が望ましい。(インバウンド)
- トイレにかなり湿気が溜まっていたが、お客さんはそれをすごく嫌う。コンクリート造りでもあるし、特に夏場は湿気が溜まりやすい。快適にするために、もう少し換気が必要だと思う。(観光)
- 屋根の上に貯めた雨水を循環させて利用していることを、もう少しアピールできるのではないかと思う。建物が災害避難場所になっていることもあるので、防災モデル施設としてアピールを。(観光)

【施設（ソフト面）に関する事柄】

- 徳島の「あすたむらんど」には人体の骨を組み立てる体験ができるが、牧野植物園も子どもが遊びながら学べる、体験できるものがあると思う。(教育)
- 「園内でこの植物を探そう」など学習でも使えるパンフレットを100円や200円で売っていたら、学習で来園した時に見せながらメモを取らせたりできる。また遠足の時も活用できる。(教育)
- レストランだけに行く人は入園料がいない。ワークショップも同様にしてあげたらいい。2,000円の参加費に入園料も必要となると高い。(子育て)
- 花を子どもたちが描いて展示室のところに一緒に展示。子どもの作品を展示したらおじいちゃん、おばあちゃんが来る。そこでは夏限定でソフトクリームの販売があればいい。(子育て)
- 野イチゴ、アケビ、ハーブなどの食べられる植物を使って、簡単に食べられるクッキーなどを作って売る。(子育て)
- 自由に採れるエリアを設けて採取からやりたい。採取したものをカフェに持ってくると料理に使ってくれる試食や、もぎたてのバジルを使ってピザを調理など。(子育て)
- 愛媛のマーニー企画展のように実際に中に入ることができる再現セット。牧野博士の部屋のスペースをもうちょっと広くして入ってみたいなと思った。使っていたものを持ってみたい、置いてある本を見られたり。そうすると子どもも楽しい。牧野博士が生きていた時代に入りこめるような体験。(子育て)
- 英語表記は結構あってよかったと思うが、中国語が無い。見どころだけでも中国語の説明を付け加えた案内があればいいと思う。(外国人)
- せめて土日だけでも英語、中国語に対応できるボランティアさんと連携をして、ガイドを行なってもらう方向に進めばいいと思う。自分たちボランティアガイドも活躍できる。今は知識が足りないが、連携できるようになれば勉強していくこともできる。(インバウンド)
- 時間に余裕がある場合のコース、短時間で見どころのポイントを回るコース等のモデルコースがあれば、ボランティアも勉強しやすく、取り掛かりやすい。(インバウンド)
- 大英博物館などへ行っても、全ての展示を見るのは大変なので、「コレのココは見て！」みたいな案内が星付きである。そういったものがあれば。(インバウンド)
- 牧野植物園は季節の花、園芸植物を集めて見せるフラワーパークではないと思うが、来園者は花がないとつまらないというところに難しさがある。(観光)
- ビジネスを考えたら、牧野のコンセプトからはある程度の脱線も必要。例えばバラ園などをすると来園者は増えると思う。(交通)
- 牧野植物園は全天候型だと思う。植物フィールドワークのガイドも、館内の牧野博士という人のガイドもできる。どちらも重要な価値があるので、ガイドは2つあってもよいと思う。(観光)

- 元々、植物園では果実の採取といった体験はできないものだが、牧野植物園だからこそころできることがないか考えてほしい。実際に触って、食べることは必要だし、可能だと思ふ。未公開の園地を利用して、自由に葉っぱを千切ることができる空間を併設できないだろうか。(観光)
- すでに実施しているかもしれないが、子ども向けに植物図鑑で植物名を調べる方法を教える。夏休み等に実施すると植物好きが増えるのではないかと思ふ。(交通)

【広報、集客手段に関する事柄、その他】

- 学校に大きなポスターを貼れば、子どもたちは絶対見る。子どもが興味を持つ企画展などの時に作成。(教育)
- 今、美術館でも毎日数回、ガイドツアーをタイムテーブルをつくって実施している。それを是非行ってほしい。牧野博士を知りたいコース、珍しい植物を見たいコース、子ども、孫とお散歩コースなど、いろいろ作れそう。(自然環境)
- MY 遊バスには「ですかカード」が使えなくて、よく問い合わせがある。牧野植物園が決められるわけではないが、残念なところ。(自然環境)
- 牧野植物園に来たら少なくとも半日は楽しめるという評判をとったほうがいい。観光バスがさっと来て、30分で帰って、それなりに良かったといわれるような場所にするにはもったいない。(自然環境)
- 広報は県のさんSUN高知、牧野のHP、パンフレット程度。待ちの姿勢だと思ふ。人が調べて来てくれる、それでやっと見る状態。強みがすごくいっぱいあるので、もっと発信したらいい。(子育て)
- 牧野博士が何を成したかということ、高知県民のどれだけの人が明確に知っているのかなという感覚がある。自分は何となくしか知らなくて、昨日主人に1,000種類以上の植物を見つけたという話を聞いた。それを文字説明だけでなく、絵で表せれば、「これだけ見つけて、これだけ名前を付けたのが、すごい」と思える。県民がどれだけ牧野博士を好きで、どれだけ知っているかということに疑問に感じているので、功績といったことをもっと広報の仕方を考えて取り組む。(子育て)
- 小学校にチラシが来ると、夏休みに遊びにいかうかなと思ふ。大型ショッピングセンターで催されているお化け屋敷は、商業目的なのに小学校のチラシに入っている。配られたものが目に留まれば、行こうかなと検討する。(子育て)
- 専門性が高い植物園だから、修学旅行の誘致をするべき。(交通)
- 節目になるタイミングで、牧野博士を名誉県民、名誉市民等にすべきではないか。(交通)
- 体験イベントなどに参加する場合、入園料に加えてイベントの参加料が必要になるのは高いと思ふ。入園料は子ども300円、大人500円、未就学児は無料とする方がいいような気がする。(観光)
- 研究活動や役割の重要性は、はっきり知らせていく、周知していくことが必要だと思ふ

が、あえてその重要な場所に入室させて見せる必要はないと思う。(観光)

- 最近、よくクラウドファンディングを耳にするが、牧野植物園の事業に賛同する人、価値を理解した人が募金できる等、何かしらのアクションを起こせる仕組みがあってもいいように思う。(観光)
- 研究の施設を持っているのが本来の植物園で、四国にはここしかない。だから県外の人には、こういう研究施設の植物園を持っている高知はすごいと羨ましがる。ただあまり高知県の人が理解してない。(観光)
- 剪定ごみを焼却するのはもったいない。どこかに積み上げておくと、カブトムシなどが出てくるので子どもが喜ぶ。(交通)
- さつき展、あじさい展などは大幅に来園者が増えたそうだが、特別な展示がない時期の来園者を増やさなければ。イベントは一過性のものだから、宣伝・広報を強化していく必要がある。(観光)

総評 (分野ごとの視点)

【教育分野】

園の魅力や活用方法を積極的に学校に PR することが必要。

牧野植物園には子どもの遠足、学習の場として活用できる場所がたくさんある。そのなかでも映像ホールはいいと思う。最初にここで植物の映像を見て事前学習し、本物の植物を見つけに行くことや、学芸員の話聞いて学習するなどができる。映像ホールの存在や、そういった活用方法を、学校の先生方が知らないことが問題。これは園からの PR が必要だと思う。児童生徒に企画展を PR するには、興味を引く内容で、大きなポスターを 1 枚学校に貼れば、子どもたち全員が注目してくれる。もっと学校に PR することを、積極的に行ったらいいのではないか。

来場者を増やすという点では、子どもたちの描いた植物の写生を五台山ホール等に展示すると家族が観にくる。徳島の「あすたむらんど」では人体の骨を組み立てる体験コーナーがあるが、この園も子どもたちが体験、遊びながら学べるエリアがあればと思う。触ってみたい、食べてみたい、遊んだりできれば、普段の休日でも親子で賑わうのではないだろうか。

【高齢者・自然環境分野】

県民が牧野植物園に愛着を持つ、そんな気持ちの醸成をしていくべきだ。

牧野植物園は植物園としての顔のほかに、研究施設であり、もう一つは牧野博士の記念館という人となりを伝える場所でもある。ハーバリウム (標本室)、牧野文庫などは来館者が出入りできないことは理解できるが、この機能や素晴らしさの一端を、県民に広報することは大事ではないか。それは高知県の財産であり、「高知に来たらここは行っておくべき場所だよ」と、県民が県外から来た人に口コミで伝えられるよう、牧野植物園への愛着を醸成するために、できることからやってほしい。

今回もガイドをしてもらいながら園内を歩いた。自分で見て回る場合と、説明を受けながら回るのでは、感動の度合いが大きく異なる。牧野植物園のファンをつくるためにも、ガイドの充実、それが難しいのであればスマートフォンを活用した音声ガイドなどは必要。入館料は高いが、ガイドを受ければ、そうは感じなくなる。例えば牧野博士を知りたい人コース、珍しい植物を見たい人コース、のんびり過ごしたい人コースなど、ボランティアガイドさんの視点や得意コースでガイドがあれば楽しい気がする。

【子育て分野】

植物を好きになる子どもを育てたいという思いがあれば、
いろいろな体験メニューが可能になる。

レストランアルブルには、お子様ランチや座敷が無い。映像ホールも大人サイズのテーブルと椅子だけ。大きいテーブルの間に子ども用の小さいテーブルがあったり、小さい子どもが読む絵本などがあつたりすると嬉しい。テーブルに一輪の花があれば、会場の雰囲気も変わるのではないか。牧野植物園は子育て世代が利用しにくい大人の施設。特に小さい子どもへの配慮が足りないと感じている。

子どもたちが体験できる場所も欲しい。これは一例だが、今回はハーバリウムで貴重な標本を見た。(別場所で)子どもたちに標本体験をさせる。自分でつくるのではなく、自分たちが草花になって大きな紙の上で標本になる。おそらくテープの上をペタペタと歩くだけでテンションはあがるし、撮影スペースがあれば面白い。植物を好きになる子どもを育てたいという思いがあれば、いろいろな体験は可能になる。それは職員の負担になったり、手間暇がかかることなので、その思いがないと「面倒だ」、「入らないで」、「触らないで」になってしまう。

【観光(インバウンド) 外国人分野】

外国語の館内表示の充実や、
県内の語学ボランティアとの連携は必要。

施設として気になるのは、休憩するためのベンチや椅子と、トイレの少なさ。そして、どこにいけばトイレがあるのか?という案内表示が足りない。位置関係もよくわからない外国人に、トイレを探す苦労をさせてはいけない。展示施設をはじめ英語はある程度カバーできているが、中国語はほとんどないことも見直す点だといえる。また、外国人は現金をあまり持ち歩かないので、園内のすべてのレストラン、ショップなどでクレジットカード決済ができればと思う。アジア系の方は漢方薬への興味が強く、薬草などを使ったオリジナル商品があれば話題になる。茶室も外国人が喜びそうで、茶道の体験ができればさらに喜ばれる。正座をしてもらわなくても、畳用の椅子で大丈夫。野立てで召し上がっていただくようなお接待もいい。

土日だけでも英語や中国語に対応し、簡単な説明ができるボランティア・スタッフが常駐していれば、外国人旅行者にとって心強い。県内の語学ボランティアと連携すれば可能ではないだろうか。

【観光・交通分野】

教育旅行の積極的な誘致や、
開放区域をつくり、新しい来園者を増やしていく。

牧野植物園は専門性が非常に高い植物園。ここに教育旅行（修学旅行や研修など）を誘致すべき。県の取り組みにより関西方面から多く教育旅行が来ているので、積極的に売り込んでほしい。そうすると、ガイドの必要性が生じる。今回のモニターツアーのような説明を受ければ、児童・生徒たちにも強い印象が残っていくだろう。レクチャーを受けたり、休憩場所となる映像ホールや階段広場などの活用にもつながる。また、豪華客船も高知新港に次々とやってくる。これに対応するためには英語のガイドが必要となるが、それが困難であれば音声ガイド端末の貸出があれば、良い印象を持ってもらえるだろう。

現在の牧野植物園のスタンスを崩さず、一般の来場者を増やすという視点からも、「開放区域」が必要ではないか。子どもが気軽に植物に触り、摘んだり、遊んだり、遊具があったり。大人は花見や月見で宴会を開いても大丈夫のような場所。今の施設内にそれを設けることは難しいので、植物園が保有している土地を新たに整備してエリアをつくれないうか。